



営農NEWS



レンコン栽培でのイネネクイハムシおよび 褐斑病の発生に注意しましょう

県内のレンコン生産は、一部にハウスなどを利用した栽培もありますが、多くは露地栽培で、4月下旬～5月中旬頃に植えられる作型を中心に、日本一の産地となっています。

6月に入り、立葉の生育も順調と思われそうですが、これから更に高品質のレンコン生産を進めるにあたり、適切な肥培管理をおこなうとともに、各種病害虫の被害発生にも十分注意して、適切な防除を実施する必要があります。

植付後は、アブラムシ類の防除を徹底してきましたが、これからは、イネネクイハムシや褐斑病の発生にも注意が必要です。

1 イネネクイハムシ

畦畔やレンコン田などの土中で越冬したイネネクイハムシ幼虫は、レンコンの根が伸び始める5月下旬頃から発根部に集まって根を食害します。その後、6月上旬～下旬頃にマユを作って蛹になり、約一週間で成虫になるため、6月下旬頃から7月中旬にかけて成虫が現れます。この成虫がレンコンの浮葉を表面から食害して小さな穴をあけ、しばらくすると浮葉の裏面に産卵します。卵は約一週間でふ化し、水中に落下した幼虫がレンコンの根を食害します。

このため、レンコンの被害としては、主に幼虫による根などの食害です。幼虫による根の食害が激しいと、浮葉や立葉の減少や著しい生育不良となり、収量も減少します。また、商品となるレンコンも加害され、傷物による品質不良となります。さらに、食害されたレンコンは腐敗病を併発することが多い傾向があります。

<防除のポイント>

- 1) 周辺の雑草等にも産卵、生息しますので、レンコン田の周辺は常に除草しておきましょう。
- 2) 周囲に床立ち圃場がある場合には、特に注意して観察し、発生に応じて防除を徹底しましょう。
- 3) 薬剤防除は、成虫や新幼虫が発生してくる6月下旬頃～7月中旬頃に行います。なお、成虫や新幼虫の発生する期間がダラダラと長期にわたるため、1回の防除で被害がおさえられない場合は、7月中旬頃までに2回目の追加防除が必要となります。
- 4) 農薬散布の際は、農薬ラベルに記載されている注意事項を十分確認し、レンコン田が湛水状態のときにムラなく均一に散布して、散布後7日間は落水、かけ流しをしないように徹底します。また、降雨等により、水があふれると予想される場合には、散布を控えましょう。

表1 レンコン イネネクイハムシの防除薬剤（平成29年6月14日現在）

薬剤名	使用量	使用時期 / 使用回数
トレボン粒剤	3 kg/10 a	収穫14日前まで / 3回以内

2 褐斑病

病原菌のカビは被害茎葉などで越冬し、4月下旬頃から孢子が飛散し始めます。発病には高温多湿の条件が適し、露地栽培では早いと6月中旬頃から発病が認められることもあります。主に、曇雨天の続いた後や台風など強い風雨があると広域で大発生します。

病徴は、はじめ葉に暗褐色の小斑点ができ、後にやや角張った褐色の病斑に拡大します。古くなると内部に輪紋を生じ、中央には淡褐色の中心部ができ、発病が激しいと葉が黄化して枯死します。

<防除のポイント>

- 1) 発病を認めたら、薬剤防除を行いましょう。この場合、畦畔からの散布では、レンコン田の中央にまでムラなく散布するよう丁寧に行いましょう。
- 2) 被害残渣は伝染源になりますので、できるだけ土中に埋設するなど適切に処分してください。

表2 レンコン 褐斑病の防除薬剤（平成29年6月14日現在）

薬剤名	希釈倍数	使用時期 / 使用回数
トップジンM水和剤	1,500 倍	収穫前日まで / 3回以内
トップジンM粉剤 DL	3~4 kg/10 a	収穫前日まで / 3回以内

注) 水和剤か粉剤 DL のどちらかで防除し、合わせて3回以内の使用回数です。

農薬使用の際は、必ずラベル及び登録変更に関するチラシ等の記載内容を確認し、飛散に注意して使用して下さい。

※JA全農いばらきホームページでもご覧になれます。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040